

Michel Foucault dans les années 1970

	文学 littérature	狂気 folie	知 savoir	権力 pouvoir	性 sexualité	政治 politique
1970	9月 フーコー初来日 10月 ジル・ドゥルーズ『差異と反復』『意味の論理学』の書評を発表(「劇場としての哲学」No.80)					
1971	1月 コレージュ・ド・フランス講義『知への意志』開始 2月 監獄情報グループ(GIP)を創設 9月 チョムスキーと対談(「人間的本性について—正義対権力」No.132) 「ニーチェ・系譜学・歴史」No.84 発表					
1972	1月 コレージュ・ド・フランス講義『刑罰の理論と制度』開始 3月 ジル・ドゥルーズと対談(「知識人と権力」No.106) 4月 アッティカ刑務所訪問 11月 ピエール・リヴィエール事件の分析開始 ドゥルーズ=ガタリ『アンチ・オイディプス』刊行					
1973	1月 コレージュ・ド・フランス講義『懲罰社会』開始 4月 『監獄の誕生』第一草稿完成 5月 リオ・デ・ジャネイロ カトリック司教大学講演(「真理と裁判形態」No.139) 10月 プロレタリア左派が解散					
1974	1月 コレージュ・ド・フランス講義『精神医学の権力』開始、「規律権力」の概念が初登場する 4月 『同性愛大百科』を巡る裁判の保証人として召喚(「セクシュアリティと政治」No.138) 8月 『監獄の誕生』執筆完了					
1975	1月 コレージュ・ド・フランス講義『異常者たち』開始 2月 『監獄の誕生』刊行 4月 初のアメリカ講演 5月 デス・ヴァレーのザプリスキ・ポイントにてサイケデリック体験 6月 『性の歴史』草稿を大幅に変更 12月 ロラン・バルトのために文学記号学講座の創設を提案 ジル・ドゥルーズが『監獄の誕生』の書評「あたらしい地図作成者」発表(ドゥルーズ『フーコー』)					
1976	1月 コレージュ・ド・フランス講義『社会は防衛しなければならない』開始 「これまで5年の講義を規律に当ててきたが、これから5年は戦争・闘争に当てる」と宣言 8月 『知への意志』執筆完了 12月 『知への意志』を『性の歴史』第1巻として刊行 以後5年間、本を出さないことを決意					
1977	1月 「汚辱に塗れた人々の生」No.198 発表 ドゥルーズ=ガタリ『アンチ・オイディプス』アメリカ版に序文を提供(No.189) 5月 フーコーらをまとめた「ヌーヴォー・フィロゾフ(新しい哲学者たち)」という呼称が登場 12月 「権力と戦略」No.217 発表 ジル・ドゥルーズと決裂 イランの宗教都市で40日ごとに起きる出来事を、マオイストのイラン人学生がフーコーに預言					
1978	1月 コレージュ・ド・フランス講義『安全・領土・人口』開始、「統治性」の概念が初登場する 2月 ブレーズ、ドゥルーズ、バルトと共に、IRCAMにて音楽の時間のセミナー開催 4月 二度目の来日(『哲学の舞台』、「世界認識の方法—マルクス主義をどう始末するか」No.235) 8月 イランに関する研究を開始 9月 イラン訪問中、イラン国王シャーの軍隊がジャレ広場にてデモ隊に発砲 カンギレム『正常と病理』のアメリカ版に序文を提供(「フーコーによる序文」No.219)					
1979	1月 コレージュ・ド・フランス講義『生政治の誕生』開始、リベラリズム批判を展開 10月 スタンフォード大学で講演(「全体的なものとの個的なもの—政治的理性批判に向けて」No.291) 12月 次回コレージュ・ド・フランス講義『生者の統治』の準備 『性の歴史』第2巻に繋がる初期キリスト教の研究を開始					